

(案)

えべつ未来づくりビジョン

(第7次江別市総合計画)

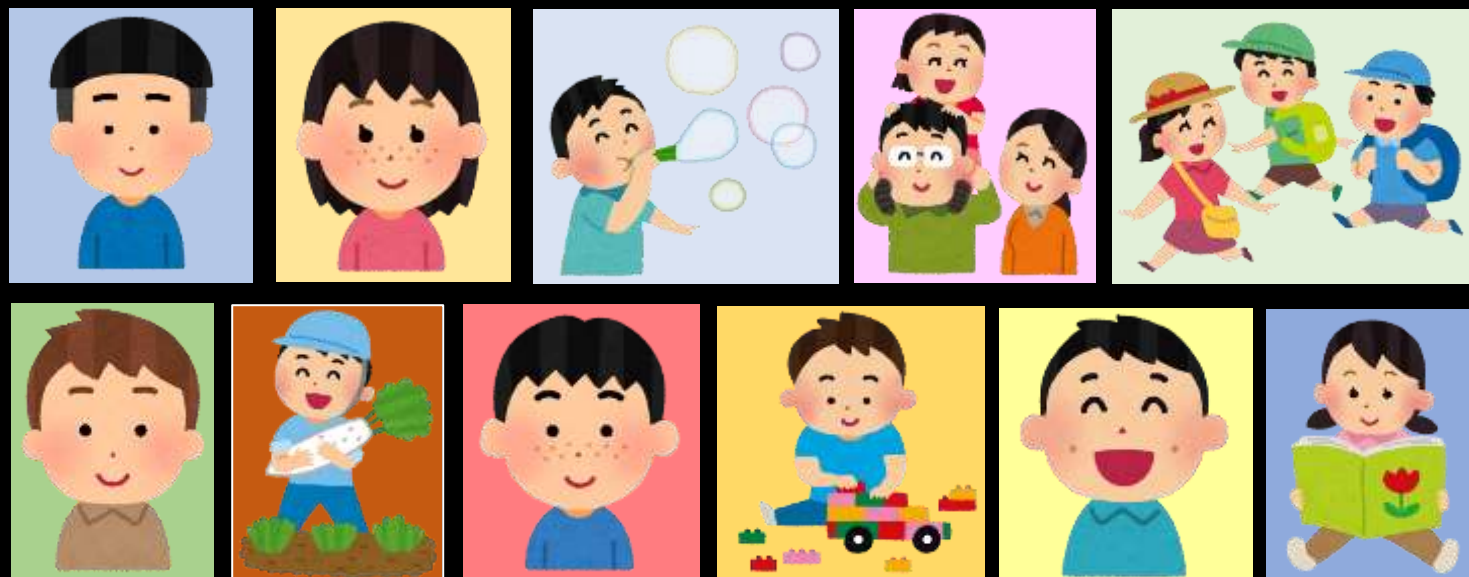
【えべつまちづくり未来構想】

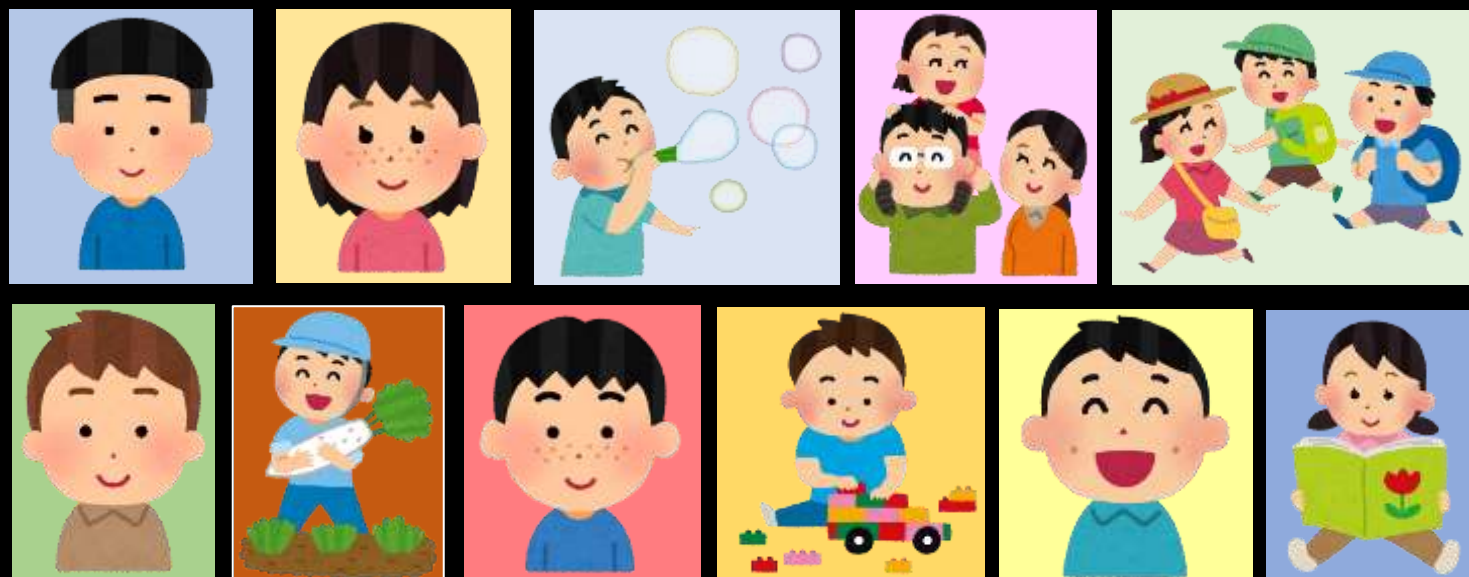
令和5（2023）年9月
江別市



幸せが 未来へ

※見開きページには、子育て応援のまち・えべつ Instagram フォト





つづくまち えべつ

キャンペーンに投稿された写真を掲載予定

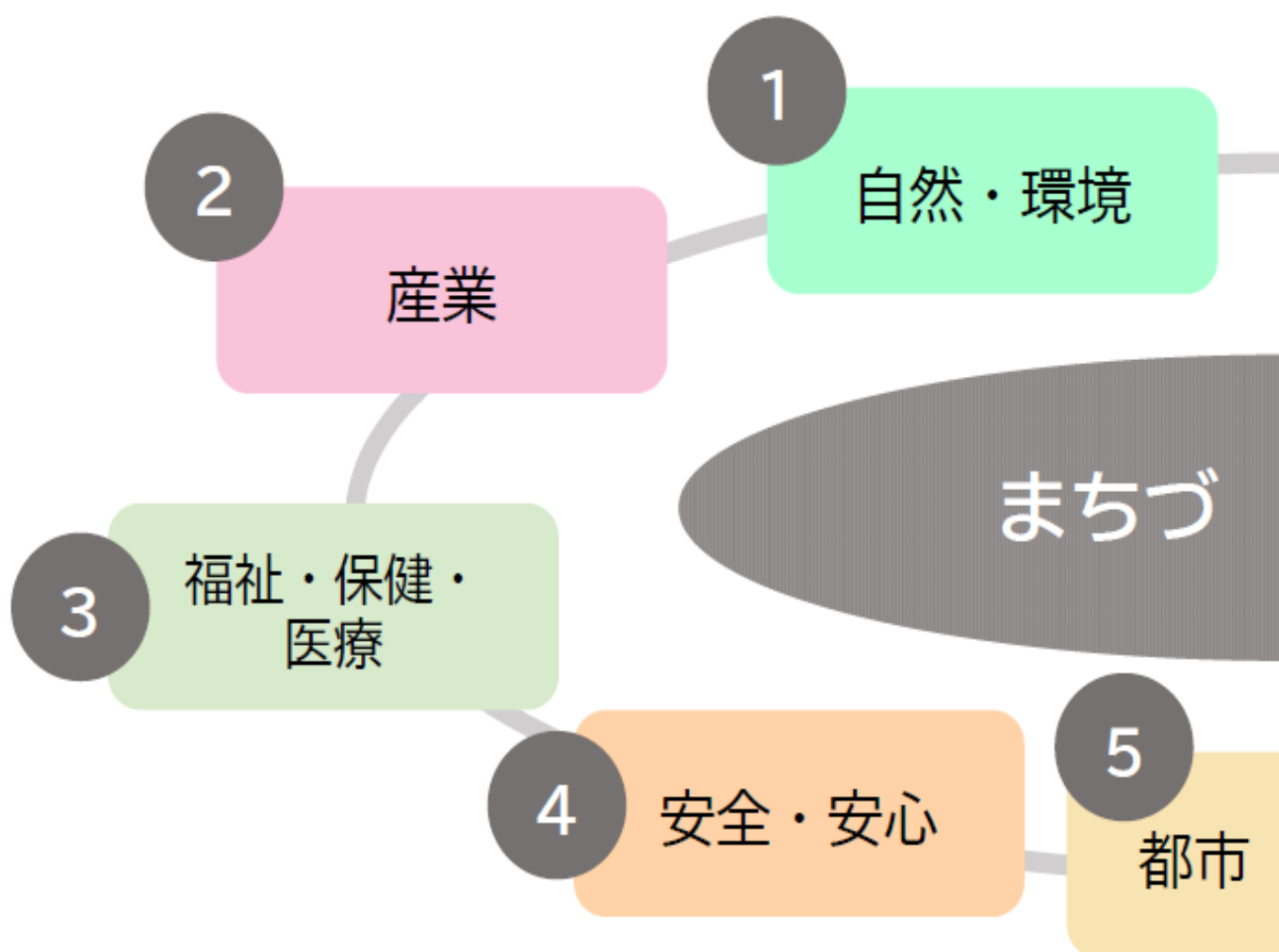


● 将来都市像 **幸せが 未来へ**

● まちづくりの基本理念

いつまでも
元気なまち

みんなで
支え合う
安心なまち



つづくまち えべつ

子どもの笑顔が
あふれるまち

自然とともに
生きるまち

新しい時代に
挑戦するまち

計画推進

9

協働・共生

8

生涯学習・
文化・スポーツ

7

生活

6

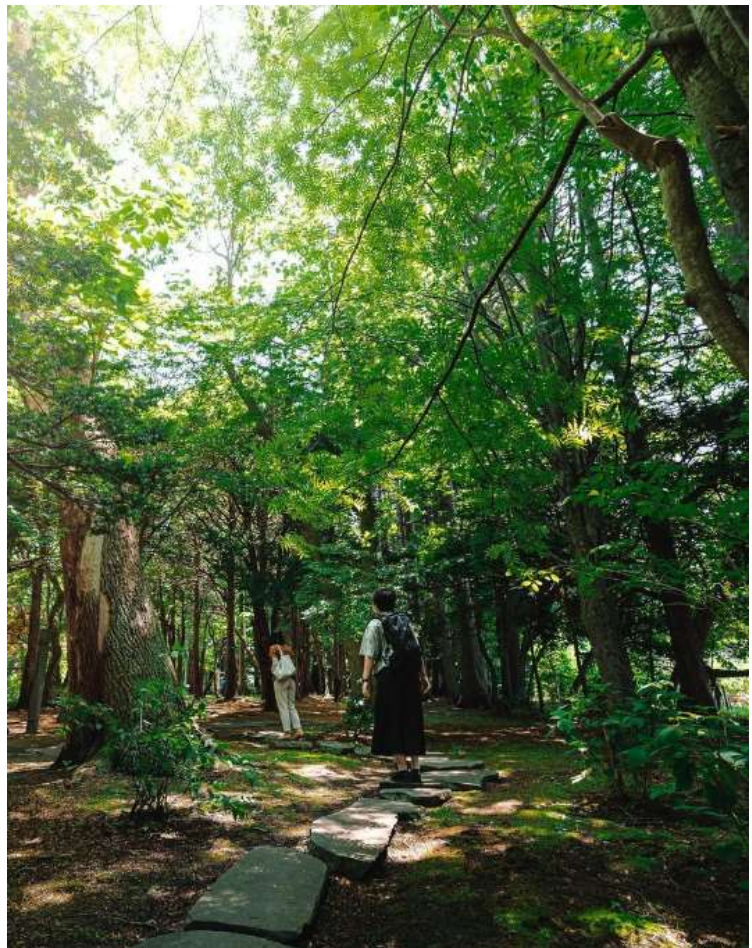
子育て・教育

くり政策

もくじ

第1章 はじめに

1 江別市の概要	1
(1) 歴史	1
(2) 気象	1
(3) 自然	1
(4) 立地	2
(5) 産業	2
2 江別市の強み	3



第2章 えべつまちづくり未来構想

1 江別市総合計画について	5
(1) 計画を策定する目的	5
(2) 計画の構成と期間	5
(3) 策定する上で大切にしたこと	8
2 まちづくりの主な課題	11
(1) 人口減少対策	11
(2) まちの経済活性化	12
(3) デジタル技術の活用	12
(4) 脱炭素・循環型社会への対応	13
(5) 地域のつながりづくり	13
(6) 共生社会への対応	14
(7) 持続可能な行財政運営	14
3 めざすまちの姿	15
(1) まちづくりの基本理念	15
(2) 将来都市像	16
(3) 将来人口の考え方	17
(4) 都市づくりの方向性	18
4 まちづくり政策一覧	19



第1章 はじめに

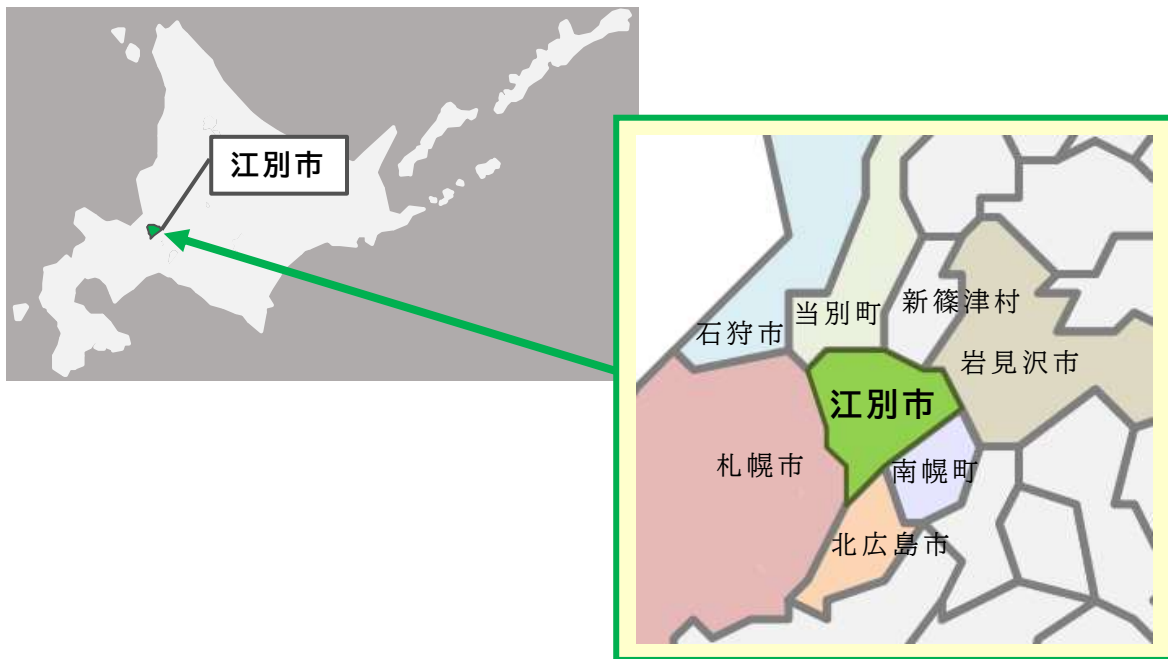
1 江別市の概要

(1) 歴史

「江別」の地名の由来は、アイヌ語の「ユベオツ」（サメのいる川）、
「イ・プツ」（大事な場所への入口）など諸説あります。

明治4（1871）年に、宮城県涌谷領から21戸76人の農民が移住し、明治11（1878）年には、屯田兵10戸56人が入地して、明治政府による開拓使府令が布達され、江別村が誕生しました。

その後、各地から屯田兵が入地し、計画的な開拓が進められ、大正5（1916）年に町制が施行、昭和29（1954）年には市制が施行され、江別市が誕生しました。



(2) 気象

四季を通じて風が強く、11月下旬から翌年4月初旬までが降雪期で、年間の総降雪量は、昭和60（1985）年度に記録した867cm、最深積雪量は、令和4（2022）年2月に記録した172cmです。

（※ 雪に関する数値は、江別市土木事務所での計測値）

(3) 自然

市内には、世界有数の平地林である「道立自然公園野幌森林公園」をはじめ、一級河川「石狩川」などの豊かな自然環境が広がっています。

また、身近な緑として親しまれている多くの公園や、農村地帯に残る耕地防風林などもあります。

(4) 立地

石狩平野の中央に位置し、全体的にほぼ平らな地形で、市内には、日本三大河川の一つである石狩川が流れ、千歳川と夕張川の合流点でもあります。

また、市内には、幹線道路である国道12号や、道央と道北を結ぶ国道275号、千歳市と小樽市を結ぶ国道337号が通るほか、高速道路（道央自動車道）が市中央部を通り、江別東・江別西の二つのインターチェンジがあります。



(5) 産業

農業では、市の面積の約40%が農地であり、稲作、畑作、酪農、畜産などにより、多彩な農畜産物が生産され、市内には、小麦製品や乳製品などの特産物を生かしたお店なども多くあります。

また、製造業では、特産品である「れんが」などの窯業製品のほか、金属加工製品や食料品など、様々な製品が製造されています。

2 江別市の強み

子どもの転入超過数 5年連続 **全国20位以内**



充実した交通アクセスや、宅地の取得のしやすさ、豊かな自然環境などから、14歳以下の子どもの転入超過数が、平成30（2018）年から5年連続で全国20位以内となり、多くの子育て世代に選ばれています。
（※ 総務省 住民基本台帳人口移動報告）

人口に対する大学生の割合 **道内第1位**

市内には、四つの大学（酪農学園大学、北翔大学、札幌学院大学、北海道情報大学）、一つの短期大学（北翔大学短期大学部）があり、それぞれが個性的な学部・学科を設置し、専門性の高い教育が行われています。
また、市内の大学・短大では、約1万人の学生が学んでおり、江別のまちは、若者が集い、行き交い、活気にあふれています。



道内**2番目**にパートナーシップ宣誓制度を導入



パートナーシップ宣誓制度は、LGBT等の性的少数者（性的マイノリティ）の当事者を含むカップルが、互いを人生のパートナーとして宣誓し、市が両者に対して証明書を交付する制度です。

江別市では、性的マイノリティの方々が自分らしく、いきいきと暮らすことができる社会を目指し、令和4（2022）年3月にパートナーシップ宣誓制度を導入しました。

充実した **交通アクセス**

江別市のとなりに位置する札幌市への移動は、電車・自動車ともにアクセスが良好です。また、市内には、五つのJR駅をはじめ、幹線道路である国道12号や、道央と道北を結ぶ国道275号、千歳市と小樽市を結ぶ国道337号が通るほか、高速道路のインターチェンジが二つあるなど、道内各地への移動がとても便利な立地です。



自然の宝庫 「野幌森林公園」

江別市には、道立自然公園野幌森林公園があり、市の面積の約10%を占めています。公園の面積は、2,000ヘクタールを超え、大都市の近郊にある大面積の平地林としては、世界的にも貴重な存在です。カツラ、ハルニレ、ミズナラなどの樹木をはじめ、野草やきのこ、また、シマエナガ、クマゲラ、エゾフクロウなどの野鳥や動物、昆虫なども生息しており、まさに自然の宝庫です。



北海道遺産 「江別のれんが」

明治期において、日本の近代化に大きく貢献した「れんが」。江別市は、れんがの一大産地で、市内では、れんが工場が操業しており、「江別のれんが」は北海道遺産にも認定されています。また、市内には、れんがを使った様々な建築物が多くあり、温もりやレトロな雰囲気を感じることができます。



耕地面積 石狩管内6市中 第1位

江別市は、道央圏の大都市に隣接しながらも、市の面積の約40%が農地で、都市近郊型農業が盛んなまちであり、地産地消を推進する取組や農業者による6次産業化なども積極的に進められています。（※ 令和3（2021）年）

ハルユタカの作付面積 道内第1位

小麦「ハルユタカ」は、初冬まき栽培技術の確立と普及によって生産が安定し、さらに、市内の産学官連携によって開発された「江別小麦めん」は、小麦の生産から製粉・製麺・消費までを市内で完結させる地産地消の取組として注目されたことにより、「麦の里えべつ」として市内外に知られています。（※ 令和3（2021）年）



ブロッコリーの収穫量 道内第2位

レタスの収穫量 道内第3位



野菜では、ブロッコリー、レタス、白菜などが道内でも主要な産地となっているほか、てんさいやスイートコーンなどの生産も盛んです。なお、畜産においては、乳用牛が4,000頭以上、肉用牛が800頭以上飼育されており、特に、肉用牛の一部は「えぞ但馬牛」のブランド牛として認知度を高めています。（※ いずれも令和3（2021）年）

第2章 えべつまちづくり未来構想

1 江別市総合計画について

(1) 計画を策定する目的

江別市では、「江別市自治基本条例（平成21年条例第22号）」に基づき、総合的・計画的なまちづくりを行うため、未来のまちの方向性を示す総合計画を策定することとしています。

現在は、ゆれ動く国際情勢をはじめ、景気の変動や、感染症の流行、大規模災害の発生などによって不安定な社会経済状況の中にあり、近い将来を見通すことが非常に難しい時代です。

しかし、このような状況でも、みんなで力を合わせ、これまでの意識や行動を、ときにつつましく、ときに力強く変えていくことで、「住み良いまち江別」を守っていくことができると考えます。

この「住み良いまち」を守り、このまちに暮らす、みんなの幸せがいつまでも続くよう、市民と行政の協働により、未来の江別市に希望を持って描いた「えべつ未来づくりビジョン（第7次江別市総合計画）」のもと、新たな時代を歩んでいきます。

(2) 計画の構成と期間

① 構成

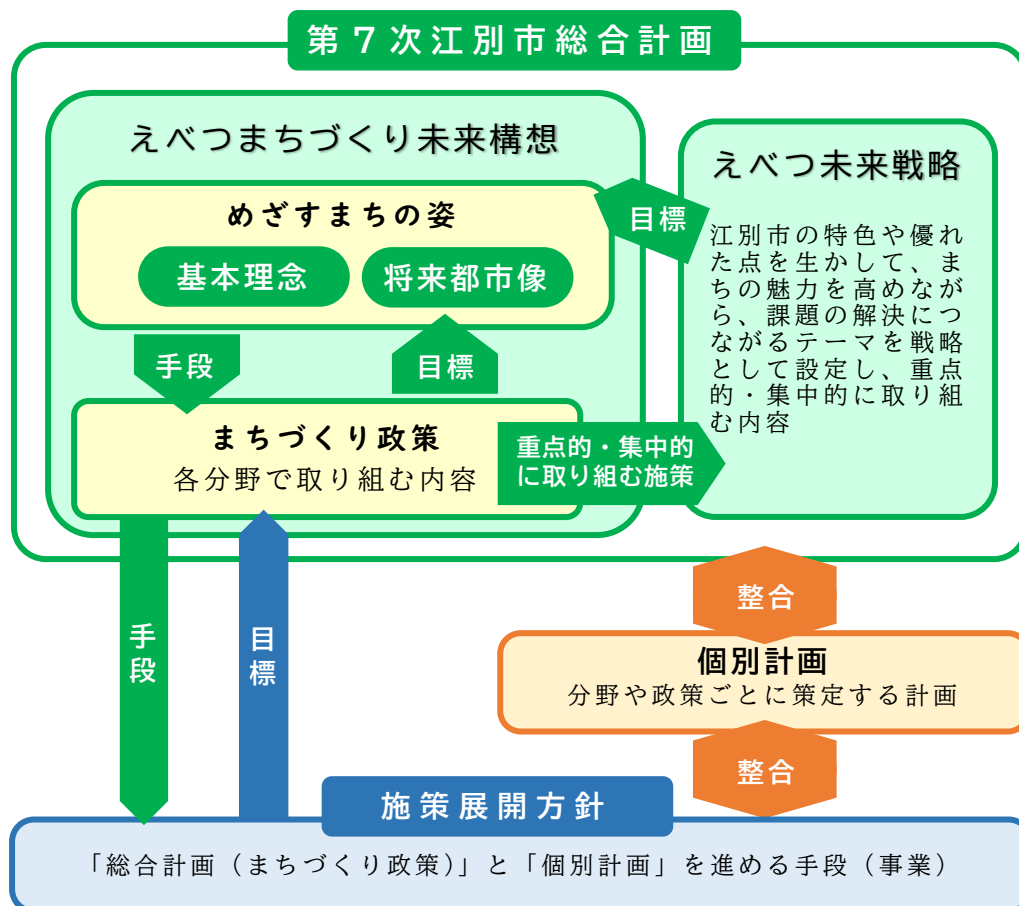
総合計画は、「えべつまちづくり未来構想」と「えべつ未来戦略」の2本柱で構成します。（この冊子は、「えべつまちづくり未来構想」のみを示しています。）

なお、「えべつまちづくり未来構想」は、「まちづくりの基本理念」や、10年後の「将来都市像」などから成る「めざすまちの姿」をはじめ、これらを実現するための必要な手立てである「まちづくり政策」で構成しています。

また、「えべつ未来戦略」では、江別市の特色や優れた点を生かして、まちの魅力を高めながら、課題の解決につながるテーマを設定し、その実現に必要な手立てを「まちづくり政策」の中から選び、重点的・集中的に取り組んでいく内容を示します。

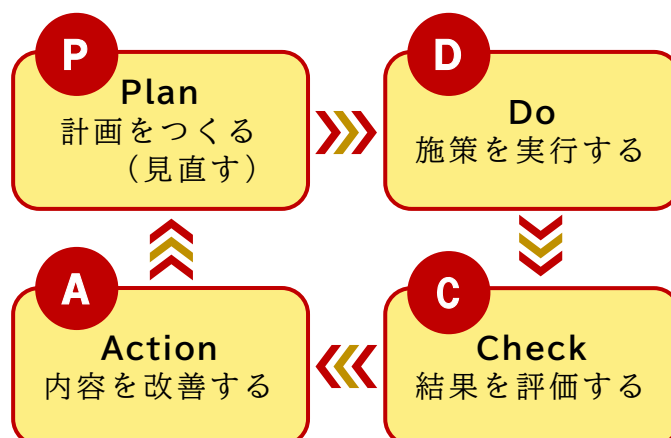
さらに、それぞれの分野の具体的な取組などは個別計画で定め、総合計画の方針に合わせて推進していきます。

そのほか、総合計画と個別計画に基づく具体的な方針である「施策展開方針」を組織ごとに策定して推進するとともに、毎年度、PDCAサイクルによって、見直していきます。



【PDCAサイクルによる施策の推進・見直し】

PDCAサイクルとは、計画(Plan・プラン)に基づく施策を実行(Do・ドゥ)し、実行結果を評価(Check・チェック)し、評価結果をもとに、より良くなるように実行内容を改善(Action・アクション)することで計画を見直すという流れを繰り返す(サイクル)進め方です。



② 期間

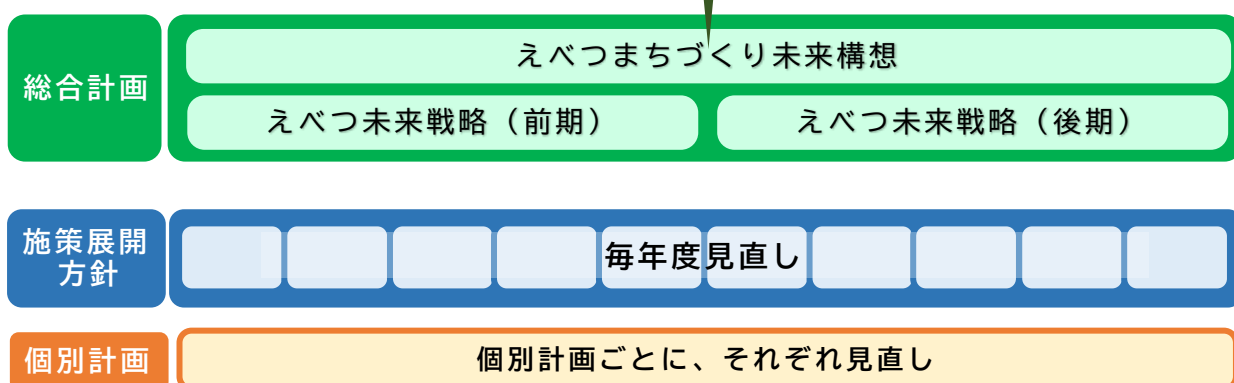
総合計画の期間は、令和6（2024）年度から令和15（2033）年度までの10年間とします。

なお、「えべつまちづくり未来構想」は、5年後に見直すことを検討します。

また、「えべつ未来戦略」は、5年後に見直すほか、社会や経済の状況に対応しながら、戦略の効果を高めるため、必要に応じて見直しを行います。

令和6	令和7	令和8	令和9	令和10	令和11	令和12	令和13	令和14	令和15
2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033

必要に応じて中間で見直し



(3) 策定する上で大切にしたこと

① 分かりやすい計画にすること

市民の皆さんと、江別市に関わる多くの方々が、まちの課題や、まちづくりの方向性を共有できるよう、分かりやすい構成と表現に努めました。

② 市民の皆さんの声を取り入れた計画にすること

「江別市自治基本条例」に基づき、市民参加型の取組を通じて、多くのご意見をいただきながら策定作業を行いました。

また、総合計画の案は、江別市行政審議会で審議いただいたほか、意見公募（パブリックコメント）などのご意見を反映して、策定することを目指しました。

③ 未来に希望が持てる計画にすること

策定の過程では、様々な課題を把握しながら、江別市が持つ強みや魅力、可能性を再確認して、これらを最大限に生かし、大切にすることで、変化の激しい時代でも、江別市の未来に希望を持つことができる計画を目指しました。

④ 持続可能なまちづくりを行う計画にすること

全国的な課題である人口減少対策を行いながら、活力のあるまちづくりを進めていく、国の地方創生の考え方を大切にしながら、総合計画の策定に努めました。

また、持続可能なまちづくりを進めるために必要な視点として、SDGs（※）の目標達成を意識した計画になるよう、努めました。

※「持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals」という意味で、世界中で起こっている環境問題、差別・貧困・人権に関する問題などを、令和12（2030）年までに解決していくことを目指しています。平成27（2015）年の国連サミットにおいて、加盟国の全会一致で採択されました。



【この計画ができるまで】

できるだけ多くの声を集めました

●市民アンケート調査

市民5,000人を対象に、日常生活の満足度や、将来のまちづくりに対する意見などを聞きました。

●高校生Webアンケート調査

市内高校の全生徒を対象に、江別市のイメージや将来の望む姿などを聞きました。



●えべつの未来づくりプロジェクト

市役所1階に設置した専用スペースやインターネットを通じて、幅広い年代の方から、江別市の魅力や未来についての意見をいただきました。



計画案に反映

いろいろな立場の声を直接聞きました

●えべつの未来づくりミーティング

少人数で構成するカテゴリー別のグループを全30グループ設定し、江別市の未来について語り合うミーティングを延べ31回実施しました。

《カテゴリー》

子育て世代、高齢者世代、自治会、産業界、福祉関係団体、NPO、市内中学・高等学校の生徒、市内4大学の学生など



策定作業は江別市の職員が一丸となって行いました

●多くの職員が参加した検討会議

市長をトップとした庁内における3層構造の検討会議では、様々な役職の多くの職員が計画の策定に加わりました。



●若手職員のミーティング参加

若手職員が、「えべつの未来づくりミーティング」に参加し、市民の皆さんの意見を聞きながら、まちづくりに対する自身の思いを発言し、意見を交わしました。



●全職員から意見を収集

市の全職員を対象にアンケート調査を行い、市の現状分析や、今後、重点的に取り組むべき分野や方向性についての意見を集めました。

計画案の審議・チェック

市民協働で計画完成へ

●行政審議会での審議

計画案は、学識経験者や関係団体の代表者、公募市民で構成される「江別市行政審議会」で審議いただきました。



●意見公募（パブリックコメント）

策定方針や計画案の作成時に市民の皆さんの意見をお聞きました。

●市民説明会

説明会を開催し、市民の皆さんに計画の内容をお知らせしました。

2 まちづくりの主な課題

(1) 人口減少対策

【背景】

日本の人口を国勢調査の結果で見ると、平成22(2010)年の1億2,805万7,352人をピークに減少が始まり、最新の令和2(2020)年調査結果では、約200万人減の1億2,614万6,099人になりました。

また、全国1,719市町村のうち、1,419市町村(82.5%)で人口が減少する結果となりました。

さらに、令和4(2022)年の出生数は、明治32(1899)年の統計開始以降、過去最少の77万人となり、少子化は、国の推計よりも早く進んでいます。

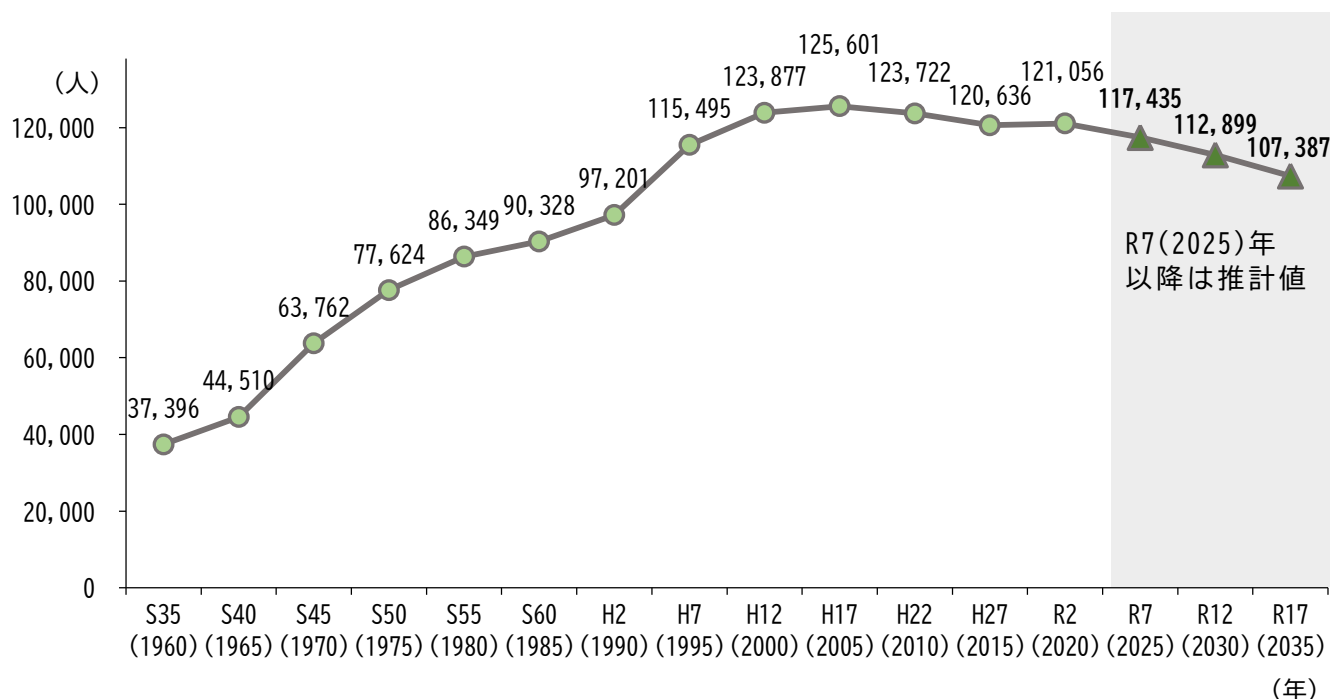
【江別市の課題】

江別市の人口の推移を国勢調査の結果で見ると、平成17(2005)年をピークに人口が減少し始めましたが、令和2(2020)年には、再び増加に転じて12万人を維持する結果となりました。

しかし、今後は江別市においても、本格的な人口減少と少子高齢化の波が押し寄せてくることが見込まれており、これによって、労働力の不足をはじめ、地域経済の縮小など、様々な問題が大きくなってきます。

このような状況の中、江別市では、人口減少を重要な問題ととらえて、まちの魅力や、若い世代が多い人口構成であることなどの強みを生かしながら、人口減少対策を行っていく必要があります。

【江別市の人口の推移と今後の推計(国勢調査結果)】



【市独自推計(令和4年)】

（２）まちの経済活性化

【背景】

地域経済は、国際情勢の変化によって、物価が急激に上昇するなどの影響を大きく受けており、今後も厳しい状況が続くことが見込まれます。

また、人口の増減と経済は、相互に関連するとされており、人口減少が経済の縮小を招き、また、経済の縮小が人口減少を加速させるという流れの中で、働く世代の人口減少によって様々な産業で深刻な労働力不足が起こっています。

このような状況の中、持続可能で元気な経済をつくるため、地域の特性を生かした、まちの経済活性化のための取組をはじめ、働く人が多様な働き方を選択できる環境づくりが求められています。

【江別市の課題】

江別市内の経済を活性化させるために、産業の振興を通じて働く場を増やすなど、まちの活力を創り出すための取組が必要です。

また、市内企業や各種団体などと広く連携しながら、江別市が持つ多くの地域資源を有効に活用するほか、良好な交通アクセスなどの強みを生かすなど、地域特性を踏まえた企業誘致を行う必要があります。

さらに、江別市内で働く方が、働きがいやチャレンジ精神を持てるような取組も積極的に行う必要があります。

そして、江別市が持つ様々な魅力を積極的に発信し、身近で気軽に楽しめる観光振興に取り組む必要があります。

（３）デジタル技術の活用

【背景】

国は、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指して、あらゆる課題の解決に、デジタルの力を活用した取組を行う方針を打ち出しました。

中でも、地方の問題として挙げられているのは、人口減少・少子高齢化をはじめ、東京圏への人口集中や、地域産業の元気がなくなっていることなどですが、これらの状況をデジタル技術の活用によって改善し、地域の個性を生かしながら活性化して、地方が日本の主役になる未来を目指しています。

【江別市の課題】

江別市でも、国の方針を受け、人口減少が進んだとしても、これまでの暮らしの質を下げることなく、また、人と人とのつながりを大切にしながら、みんながデジタル化の便利さを感じることもできる、心豊かで住み良いまちづくりを行う必要があります。

（４）脱炭素・循環型社会への対応

【背景】

日常生活や社会経済活動などで排出された温室効果ガスによって引き起こされている地球温暖化や気候変動は、世界的に深刻な問題となっています。

各国が二酸化炭素などの温室効果ガスの排出削減に取り組む中、日本においても令和２（２０２０）年に「２０５０年カーボンニュートラル」を目指すことを宣言しました。

また、地球上の生態系に大きな影響を与えていることも大きな問題となっており、生物の多様性を保全し、資源を持続可能な形で利用していくことが求められています。

【江別市の課題】

江別市では、公園や市街地などの身近に感じられる緑の空間から道立自然公園野幌森林公園に代表される大自然まで、豊かな自然環境を大切にしまちづくりが進められており、大きな魅力になっています。

脱炭素・循環型社会に対応しながら、この美しく、豊かな環境を保ち続け、次の世代に引き継いでいくために、市民一人ひとりが環境に負荷をかけない意識を持ち、日常生活をはじめ、様々な活動を通じて、地球環境にやさしい取組を実践していく必要があります。

（５）地域のつながりづくり

【背景】

現在、地域におけるつながりは、価値観・ライフスタイルの多様化や、高齢化に伴う地域活動の担い手不足などによって、近所付き合いや、日頃の見守りなどの地域で暮らす住民同士の関わりが弱まっており、地域コミュニティの維持が難しくなっています。

こうした状況は、困り事があっても相談できずに孤立につながるほか、ひと昔前であれば、近所付き合いの関わりによって防げたと思われる、子どもや高齢者をねらった犯罪の発生につながるなど、大きな社会問題になっています。

【江別市の課題】

江別市でも、地域活動の担い手不足や自治会加入率の低下などが問題になっていますが、住み慣れたこの地域で、安全に安心して暮らし続けるためには、地域における支え合いと助け合いが非常に重要です。

また、地域における住民同士のつながりは、住み良いまちづくりの重要な要素であるため、若い世代の地域活動への参加による、担い手不足の解消をはじめ、幅広い世代の参加による、見守り、支え合い、助け合うためのつながりを、地域と行政が共に築き上げていく必要があります。

（６）共生社会への対応

【背景】

様々な個性を持つ人が、能力を発揮できる社会が求められる中、性別や年齢、国籍、障がいの有無、性的指向・性自認など、個々に異なる多様性（ダイバーシティ）を理解し、受け入れることは、持続可能な社会をつくるために、とても重要なこととされています。

さらに、現在は、多様性が受け入れられるだけでなく、多様な主体が尊重され、認め合う社会の実現に向けた機運が高まっています。

【江別市の課題】

江別市では、これまでも男女共同参画や女性活躍の推進をはじめ、高齢者や障がい者、若者などが集い交流する、生涯活躍のまちを目指して取り組んできたほか、L G B Tなどの性的少数者（性的マイノリティ）への理解が広がるよう、パートナーシップ宣誓制度を導入するなど、共生社会の形成に向けた取組を行ってきました。

今後も、まちづくりの基本的な考え方である「協働」の視点に加えて、様々な分野において、多様な主体がありのままで、誰もがいきいきと暮らせる共生の社会を目指して取り組んでいく必要があります。

（７）持続可能な行財政運営

【背景】

地方行政では、人口減少や少子高齢化が進む中、デジタル化への対応や、施設の改修・更新など、多くの行政課題に伴う支出が増えています。

こうした中、地方自治体は、多様化する市民ニーズや新たなニーズに的確に対応しながら、未来への投資が可能なまちを実現するため、限られた人的資源と財源を効果的に活用した、健全な行財政運営が求められます。

また、これからの時代は、他自治体などが連携し、課題の解決に向けた広域的な取組の重要性が高まっています。

【江別市の課題】

江別市でも、今後は、高齢化に伴う社会保障費の増加や、公共施設の老朽化への対応、また、デジタル化の推進など、これまで以上に厳しい行財政運営が見込まれています。

このような状況に対応するため、事業の見直しなどを行いながら、人口減少対策や企業誘致などを積極的に行い、市税収入の確保に努める必要があります。

また、将来を担う市職員の人材育成にさらに力を入れるほか、他自治体などとの連携を図り、限りある資源と財源を最大限に有効活用するなど、将来にわたって安定した行財政運営を行う必要があります。

3 めざすまちの姿

これから江別市が目指すまちの姿として、「まちづくりの基本理念」と、その理念に基づく取組によって実現を目指す「将来都市像」のほか、「将来人口の考え方」と、土地利用や施設整備を進めるための「都市づくりの方向性」を掲げます。

(1) まちづくりの基本理念

① いつまでも元気なまち

全ての人と経済が元気でいられるよう、福祉や医療の充実をはじめ、文化やスポーツなどの生涯を通じて取り組める活動を盛り上げ、健康と心の豊かさを保つとともに、地域経済を支える産業の活性化に取り組み、人が集い、行き交う、にぎわいのあるまちを目指します。

② みんなで支え合う安心なまち

みんなが手を取り合って安心して暮らせるよう、人と人とのつながりを大切にした協働の取組を充実させるとともに、地域防災力の向上に取り組み、安全で安心な生活を送ることができるまちを目指します。

③ 子どもの笑顔があふれるまち

いつも子どもが笑顔でいられるよう、安心して産み育てられる環境を整えるとともに、子どもがいきいきと学べる環境づくりに取り組み、健やかに成長するまちを目指します。

④ 自然とともに生きるまち

人と自然が共に生きることができるよう、道立自然公園野幌森林公園や石狩川などの身近に感じられる豊かで美しい自然を守るとともに、地球環境に配慮した取組を行い、環境にやさしいまちを目指します。

⑤ 新しい時代に挑戦するまち

社会や経済が変化する中でも、住みやすいまちであり続けられるよう、デジタル技術を活用した取組などの新たな分野に挑戦するとともに、市民、企業、大学などの関係機関との協働により、新しい価値を創造するまちを目指します。

(2) 将来都市像

『幸せが未来へつづくまち えべつ』

江別市は、これから本格的な少子高齢・人口減少が進み、社会経済の大きな変革期を迎えようとしています。

そうした中でも、住みやすく、魅力的なまちであり続けるため、「まちづくりの基本理念」に基づき、あらゆる課題に挑戦しながら、みんなで支え合い、安心して暮らせる共生のまちを目指して、江別市に関わる全ての人が幸せを実感し、その幸せが未来へ続くまちづくりを進めていきます。



(3) 将来人口の考え方

江別市の将来人口は、全国的な動きと同様に、減少する推計結果となっています。

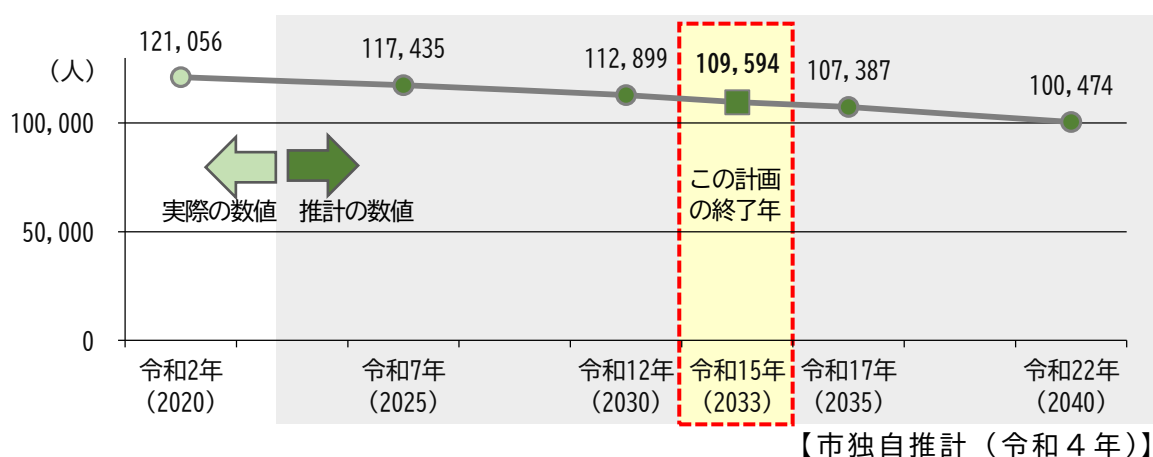
なお、この計画の終了年となる10年後の令和15（2033）年には、最新の国勢調査結果である令和2（2020）年の12万1,056人から1万人以上が減少し、10万9,594人になると推定されています。

また、年代別の人口構成を見ると、高齢化はさらに進み、令和2（2020）年に30.4%であった65歳以上の割合が、令和15（2033）年には37.1%に高まることによって、世代間の人口構成にも変化が見込まれます。

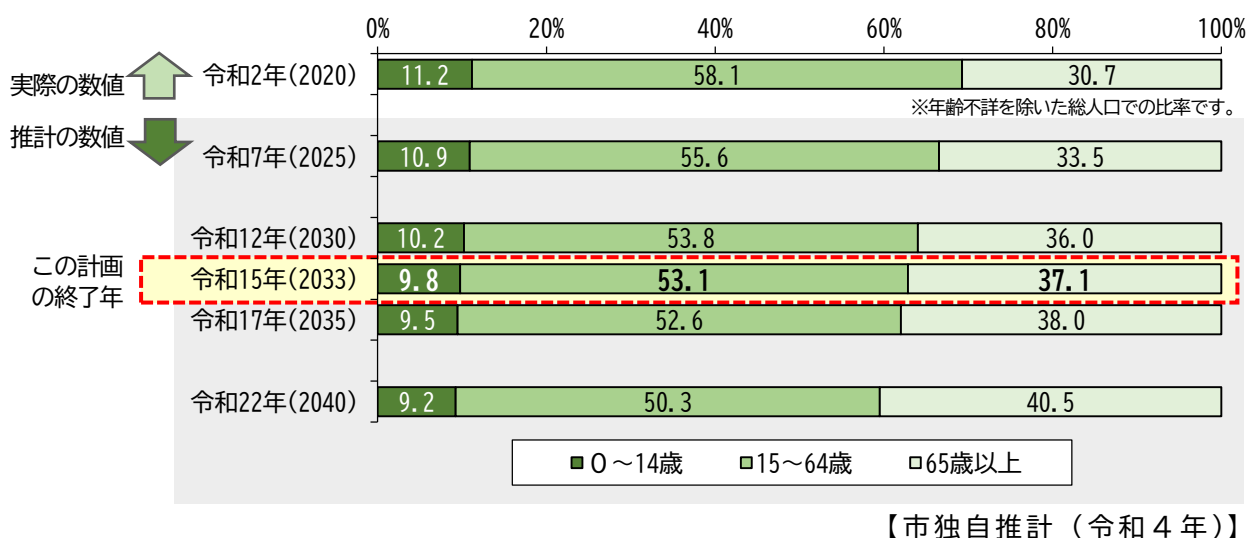
このような状況にあっても、まちの活力を保つために、人口の減少を少しでも和らげるための対策を行う必要があります。

そのために、将来を担う子育て世代などの若い方々に江別市を選んでいただけるような取組を行いながら、今、江別市内で活躍されている方が、年齢を重ねても、安心して住み続けられる住み良いまちづくりを進めることにより、10年後には、推計を上回る人口を目指します。

【江別市の将来人口（国勢調査結果を基にした推計）】



【江別市の将来の年齢3区分別人口構成（国勢調査結果を基にした推計）】



（４）都市づくりの方向性

① 駅周辺を拠点とする集約型都市づくり

江別市は、これから本格的な少子高齢・人口減少社会を迎えようとしています。このまちが住みやすく、魅力的であり続けるために、今後は、より機能的で効率的な都市づくりが求められます。

そのため、日常生活に必要な施設が身近にありながら、文化・交流施設や行政施設などの人が集まる施設は、一定の機能が集まっているＪＲ駅周辺などの拠点へ計画的に集積し、コンパクトなまちづくりを進めることにより、にぎわいの創出を図るとともに、持続可能な都市運営を行います。

また、あわせて道路や公共交通ネットワークなどの交通環境の充実を図ることで、誰もが便利で快適な暮らしやすい都市を目指します。

② 優位性を生かした都市づくり

江別市は、北海道の大都市圏に位置し、五つのＪＲ駅や二つのインターチェンジなどによるアクセスのしやすさ、恵まれた教育環境、「食」と「農」や、「れんが」などの特産品、豊かな自然環境など、様々な優位性や特色があります。

これからの都市づくりでは、まちの優位性と特色を生かした土地利用や基盤整備などを行うことで、様々な生活サービスが充実した良好な住環境の保全・創出や、活力ある産業振興につなげ、住み良い魅力的な都市を目指します。



4 まちづくり政策一覧

まちづくりを進めるために、分野別の九つの施策とそれぞれの取組の基本方針を定め、具体的な事業の実施計画は、個別計画や部局別の施策展開方針等に委ね、社会経済状況などに柔軟に対応しながら事業を推進していきます。

なお、江別市のまちの魅力を高めるために実施する重点的な取組は、「えべつ未来戦略」によって、組織横断的・集中的に推進していきます。

政策	取組の基本方針	具体的施策
1 自然・環境	(1) 人と自然の共生	① 脱炭素社会の実現 ② 水と緑の保全 ③ 安全な地域環境の保全 ④ 再生可能エネルギーの導入拡大と利用推進 ⑤ 環境教育・学習の推進
	(2) 循環型社会の形成	① ごみの減量化と適正な処理の推進 ② ごみ資源化の推進
2 産業	(1) 都市近郊型農業の推進	① 農業経営の安定化 ② 地産地消の推進 ③ 持続可能な農村環境づくり ④ 農畜産物の高付加価値化
	(2) 商工業の振興	① 食関連産業の振興 ② 企業立地の促進 ③ 中小企業の経営の充実 ④ 商店街の活性化 ⑤ 就業環境の充実
	(3) 観光による産業の振興	① 地域資源の有効活用 ② 誘客・周遊の促進 ③ 江別産品の認知度向上
3 福祉・保健 ・医療	(1) 地域福祉の充実	① 地域福祉活動の推進 ② 福祉意識の向上と人材の確保 ③ 相談支援体制の充実
	(2) 健康づくりの推進と地域医療の安定	① 健康増進活動の推進 ② 疾病予防・重症化予防の促進 ③ 地域医療体制と市立病院経営の安定
	(3) 障がい者福祉の充実	① 自立的な社会参加の促進 ② 地域生活への支援 ③ 日中活動・就労への支援
	(4) 高齢者福祉の充実	① 地域交流と社会参加の促進 ② 介護予防と自立生活の支援 ③ 高齢者福祉サービスの充実
	(5) 安定した社会保障制度運営の推進	① 生活困窮者への支援 ② 国民年金制度の円滑な運用 ③ 国民健康保険制度の安定運営 ④ 後期高齢者医療制度の安定運営

政策	取組の基本方針	具体的施策
4 安全・安心	(1) 安全な暮らしの確保	① 交通安全の推進 ② 防犯活動の推進 ③ 市民相談の充実 ④ 生活衛生環境の充実 ⑤ 冬期生活環境の充実
	(2) 地域防災力の向上	① 耐震化の推進 ② 防災意識の向上 ③ 防災体制の強化
	(3) 消防・救急の充実	① 消防組織体制の強化 ② 救急需要対策の強化 ③ 火災予防対策の推進
5 都市生活	(1) 市街地整備の推進	① 機能的な都市づくり ② 安全で快適な公園環境づくり ③ 市営住宅整備の推進 ④ 上下水道事業の推進 ⑤ 住みかえ・移住支援の推進
	(2) 暮らしを支える交通環境の充実	① 安全で快適な道路環境づくり ② 冬期の市民生活を支える道路交通の確保 ③ 公共交通ネットワークの最適化と利用促進
	(3) 暮らしを豊かにする技術の活用	① デジタル技術の活用
6 子育て・教育	(1) 子育て環境の充実	① 母子保健の充実 ② 地域子育て支援の充実 ③ 就学前児童への支援 ④ 学齢児童への支援 ⑤ 発達支援の充実
	(2) 子どもの教育の充実	① 教育内容の充実 ② 健康教育の充実 ③ 開かれた学校づくり ④ 教育環境の充実 ⑤ 教育相談・支援の充実

政策	取組の基本方針	具体的施策
7 生涯学習・ 文化・ スポーツ	(1) 生涯学習の充実	① 社会教育関連施設の充実 ② 生涯学習支援体制の推進 ③ 学びの機会の充実 ④ 青少年健全育成活動の充実
	(2) ふるさと愛の醸成と地域文化の継承	① 文化・芸術活動の育成・支援 ② 郷土の魅力を高める文化・歴史遺産の保存と活用 ③ やきもの文化の普及と振興
	(3) 市民スポーツ活動の充実	① スポーツ機会の充実 ② スポーツ活動の育成・支援 ③ スポーツ施設の充実
8 協働・共生	(1) 協働のまちづくりの推進	① 市民自治の普及・啓発 ② 市政への市民参加の拡大 ③ 地域コミュニティ活動の推進と相互連携 ④ 市民活動の推進と相互連携 ⑤ 大学との連携によるまちづくりの推進 ⑥ 友好都市等との交流の推進
	(2) 共生社会の形成	① 多様性を認め合う社会意識の醸成 ② 男女平等意識の醸成 ③ 男女共同参画の視点に立った政策の形成
	(3) 国際交流の推進	① 人材・団体の育成 ② 国際理解の推進 ③ 在住外国人への情報提供の充実
9 計画推進	(1) 自主・自立の市政運営の推進	① 基礎自治体機能の充実 ② 総合計画の効果的な推進 ③ 政策形成能力の向上と効率的な組織体制の構築 ④ 広域連携の推進
	(2) 透明性と情報発信力の高い市政の推進	① 広聴の充実 ② 広報・情報発信の充実 ③ 情報公開の推進と個人情報の保護